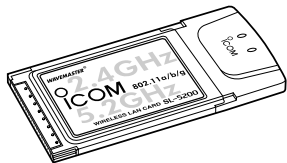


ICOM[®]

取扱説明書

IEEE 802.11a/b/g 無線LANカード

SL-5200



Icom Inc.

WAVEMASTER[®]

- 1 ご使用の前に
- 2 ドライバーの新規インストール
- 3 設定ユーティリティについて
- 4 アクセスポイントと無線通信する
- 5 パソコン同士で無線通信する
- 6 ご参考に

ドライバーを最初にインストールしてから、SL-5200を取り付けてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、5.2GHz帯または2.4GHz帯の周波数を使用して、54Mbpsの通信ができ、設置環境に合わせてパワーレベルの調整ができる無線LANカードです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icom は、アイコム株式会社の登録商標です。WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

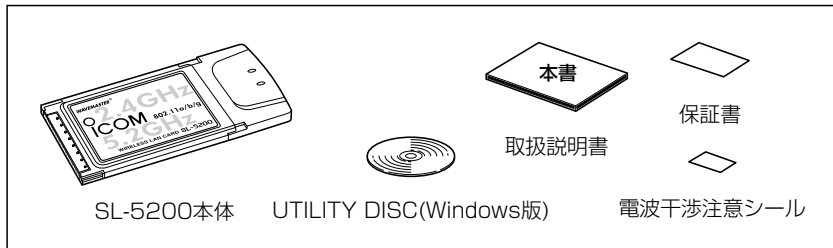
Atheros Drivenロゴは、Atheros Communications, Inc. の商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

標準構成品

本製品には、次のものが同梱されています。

本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。



不足しているものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。

【お知らせ】：無線LAN製品をご使用になるときは、下記のアドレスにアクセスしていただき、「無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティーに関するご注意」をご覧ください。

アドレス：http://wavemaster.icom.jp/security_wirelesslan.htm

はじめに

本製品の概要について

- ◎5.2GHz帯(IEEE802.11a)または2.4GHz帯(IEEE802.11g)の無線LANと最大54Mbpsの速度で通信できます。
また、2.4GHz帯(IEEE802.11b)でお使いの無線LAN環境がある場合には、最大11Mbpsの速度で通信できます。
- ◎IEEE802.11a(54Mbps)/IEEE802.11g(54Mbps)は、地上波デジタルテレビジョン放送と同じ変調(OFDM)方式を採用していますので、マルチパスによる影響を受けにくく、高速で安定性に優れています。
- ◎従来の暗号化(WEP)に加え、最新の暗号化アルゴリズム(OCB AES)を搭載しています。
- ◎暗号化認証方式は、「シェアードキー」と「オープンシステム」の両方に対応しています。
- ◎技術基準適合証明の取得により、無線局の免許は不要です。
- ◎Windows XP搭載のIEEE802.1x認証やWPA(Wi-Fi Protected Access)暗号化方式を使用できます。
- ◎無線ネット表示機能やWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用すると、通信相手を簡単に切り替えられます。
- ◎Atheros製802.11a/b/g規格対応チップセットを搭載。



動作環境について

- パソコンは、PC/AT互換機(DOS/V)に対応します。
- PCカードスロット(CardBus Type II)を装備するパソコンに対応します。
- 本製品のドライバーと設定ユーティリティーは、次の日本語OSに対応します。
 - Windows XP Professional
 - Windows XP Home Edition
 - Windows 2000 Professional
 - Windows Millennium Edition
 - Windows 98 Second Edition

※本書では、各対応OSに対する記載について下記のように総称し、表記しています。
Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98 SE

ユーザー登録について

本製品のユーザー登録は、アイコムホームページで行っています。
インターネットから、「<http://www.icom.co.jp/>」にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォームにしたがって必要事項をご記入ください。
ご登録いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

- 電波法により、屋外で5.2GHz帯無線LANを使用することは禁止されています。
- 本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。
したがって、本製品の使用に際しては、無線局の免許は必要ありません。
- 本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- 電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。
- 本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、本製品の分解や改造をしないでください。

2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯の無線LANで通信するときは、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 **サービス窓口 06-6792-4949**
(9:00~12:00、13:00~17:00)

※5.2GHz帯の無線LANでの通信は、電波干渉はありません。

はじめに

2.4GHz無線LAN 表記の意味について

- 「2.4」 : 2.4 GHz帯を使用する無線設備を示す。
「OF・DS」 : 変調方式を示す。
「4」 : 想定される干渉距離が40m以下であることを示す。
「----」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能なことを示す。

本書の表記について

本書では、次の表記規則にしたがって記述しています。

- 「 」表記 : オペレーションシステム(OS)、ユーティリティー、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「 」)で囲んで表記します。
- [] 表記 : タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。
- < > 表記 : ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を(< >)で囲んで表記します。

取り扱い上のご注意

- ◎2.4GHz帯(802.11b/g)と5.2GHz帯(802.11a)の同時通信はできません。
- ◎5.2GHz帯(54Mbps)は、電波法により、屋外で使用することは禁止されています。
- ◎パソコンおよび本製品以外の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
- ◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。
このようなときは、本製品が装着された機器を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。
- ◎本製品のドライバーおよび設定ユーティリティーは、本製品以外の機器で使用しないでください。
- ◎本製品の改変や分解したことによる障害、および故障、誤動作、不具合、破損、データの消失、あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
- ◎本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。
- ◎本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

はじめに

CD(UTILITY DISC)について

本製品のドライバーと設定ユーティリティーが収録されています。
本製品に付属のCDは、PC/AT互換機でご使用ください。

ご使用になるPC/AT互換機のCDドライブに挿入すると、パソコンの**Auto Run機能**により、メニュー画面を自動的に表示します。

- ※メニュー画面からインストールを行う前に、ほかのアプリケーションが起動していないことを確認してください。
- ※メニュー画面が表示されないときは、本製品のCDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックしてください。
- ※「UTILITY DISC」をCDドライブに挿入直後、[Shift]キーをしばらくのあいだ押し続けると、Auto Run機能をキャンセルできます。



〈ご参考に〉

CD収録の補足説明書には、本書で説明していない設定項目を詳しく説明しています。

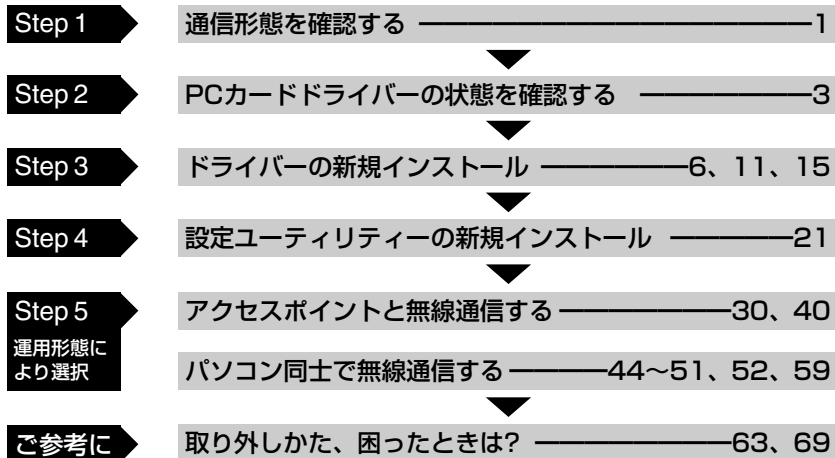
ご使用までの流れ

本製品を無線ネットワークに接続するまでの設定や操作の手順です。


本書をご覧いただく場合、次のステップ(Step)にしたがって導入してください。

各ステップの右端に記載する数字は、本書の参照ページです。

※詳細な設定をされたい場合は、CDに収録の補足説明書(PDF形式)をご覧ください。



もくじ

はじめに	i
登録商標について	i
標準構成	ii
本製品の概要について	iii
動作環境について	iv
ユーザー登録について	iv
無線LANの電波法についてのご注意	v
2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意	vi
2.4GHz無線LAN  表記の意味について	vii
本書の表記について	vii
取り扱い上のご注意	viii
CD(UTILITY DISC)について	ix
ご使用までの流れ	x
もくじ	xi
安全上のご注意(必ずお読みください。)	xvi

第1章

ご使用の前に ————— 1

- 1-1.通信形態を確認する 1
- 1-2.各部の名称と機能 2
- 1-3.PCカードドライバーの状態を確認する 3
- 1-4.使用する場所について 5

第2章

ドライバーの新規インストール ————— 6

- 2-1.Windows XPの場合 6
- 2-2.Windows Me/2000の場合 11
- 2-3.Windows 98 SEの場合 15

第3章

設定ユーティリティについて ————— 21

- 3-1.設定ユーティリティのインストール 21
- 3-2.起動と終了のしかた 25
- 3-3.設定ユーティリティをWindows XPで使うには 28

4-1.ワイヤレスネットワーク接続を使う	30
■ 接続の手順	30
■ 次回起動時の接続について	32
■ アクセスポイントを切り替えるには	32
■ [利用できるワイヤレスネットワーク(N):]欄に 何も表示されないときは？	33
■ WPA暗号化方式で通信するには？	33
4-2.自動検索される無線アクセスポイントを追加するには	34
■ 追加する手順	34
■ 認証および暗号化方式の設定について	37
4-3.設定ユーティリティを使う	40
■ 接続の手順	40
■ 次回起動時の接続について	42
■ 無線アクセスポイントを切り替えるには	42
■ 起動時の優先接続設定について	43

第5章

パソコン同士で無線通信する ————— 44

5-1.IPアドレスを設定する	44
■ IPアドレスの設定について	44
■ 設定の手順	45
5-2.「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定	48
5-3.「共有フォルダー」の設定	50
5-4.ワイヤレスネットワーク接続を使う	52
■ 本製品の設定	52
■ 接続の手順	56
■ 次回起動時の接続について	58
■ 通信相手を切り替えるには	58
■ [利用できるワイヤレスネットワーク(N):]欄に 何も表示されないときは?	58
5-5.設定ユーティリティを使う	59
■ 接続の手順	59
■ 次回起動時の接続について	62
■ 通信相手を切り替えるには	62

6-1.本製品の取り外しかた	63
6-2.本製品のアンインストール	64
■ Windows XP/2000の場合	64
■ Windows Me/98 SEの場合	65
6-3.本製品のインストール状態を確認する	66
6-4.Pingコマンドで接続を確認する	68
6-5.困ったときは?	69
■ ドライバー/設定ユーティリティーを Windows XP/Windows 2000に インストール、またはアンインストールできない	69
■ 本製品をPCカードスロットに装着してもランプが点灯しない	69
■ ドライバーが正しくインストールできない	69
■ 無線アクセスポイントと通信できない	70
■ 「アドホック」モードでパソコン同士が無線通信できない	72
■ 無線アクセスポイントに接続できるが、ファイル共有できない	73
■ 弊社製無線アクセスポイントに装着したとき、使用できない	73
6-6.故障のときは	74
6-7.定格	75

安全にお使いいただくために、 ご使用の前に、必ずお読みください。

- ▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ▶次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ▶お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎製品の分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

- ◎本製品のコネクター部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎水や海水につけたり、ぬらさないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎本製品の取り付けや取り外し、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で行ってください。
けが、感電の原因になります。
- ◎指定以外の付属品および別売品は、使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに本製品を取りはずしてください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎本製品をパソコンに装着するときは、本製品の裏と表を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
- ◎OSの起動中は、本製品を取り外したり、取り付けたりしないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度がパソコンの取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所では使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になることがあります。
- ◎本製品の通信中に、本製品を取りはずさないでください。
故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。
- ◎本製品の上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎本製品を落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

安全上のご注意

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

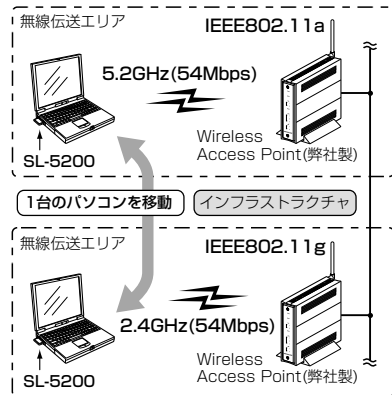
- ◎本製品を取り付けたパソコンをぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎長時間、本製品を使用しないときは、安全のためパソコンから本製品を取りはずしてください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。

- ◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

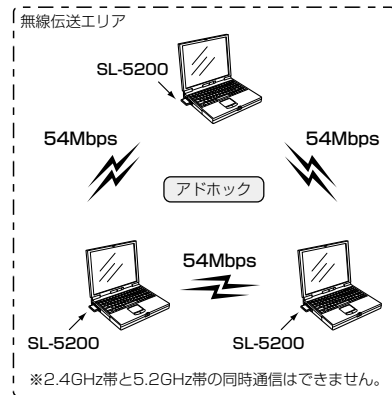
1-1.通信形態を確認する

本製品は、ご使用の環境によって、次のどちらかの「無線通信モード」が選べます。
 ※出荷時は、「インフラストラクチャ」モードに設定されています。

■ アクセスポイントと無線通信する 「インフラストラクチャ」モード(※4章)

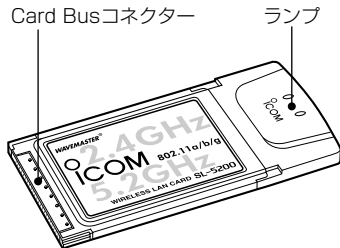


■ パソコン同士が無線で直接通信する 「アドホック」モード(※5章)



1 ご使用の前に

1-2.各部の名称と機能



「Plug and Play」に対応していますので、パソコンのOSが起動した状態で本製品を装着できます。

【CardBusコネクター】

パソコンに装備されたPCカードスロット (CardBus type II) に接続する端子です。
※金属片やゴミがコネクターに付着していないことを確認してから装着してください。

■ ランプと無線LANカードの状態

ランプ	無線LANカードの状態
同時に高速で点滅	送受信しているデータ量が多いとき
同時にゆっくり点滅	送受信しているデータ量が少ないとき
交互にゆっくり点滅	無線伝送可能なエリアを外れた場合など、通信できる無線LAN機器を探しているとき
消灯	本製品に電源が供給されていないとき

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

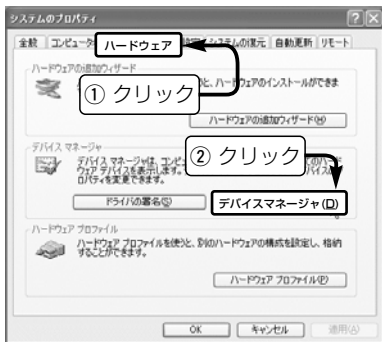
本製品のドライバーをインストールする前に、32ビットPCカードドライバーの状態を確認してください。(※手順は、Windows XPを例に説明しています。)

■ 確認の手順

- 1.マウスを〈スタート〉→[マイコンピュータ] (右クリック)→「プロパティ(B)」の順にクリックします。
 - 「システムのプロパティ」を表示します。



- 2.[ハードウェア]タブ→〈デバイス マネージャ(D)〉の順にクリックします。
 - 「デバイス マネージャ」を表示します。

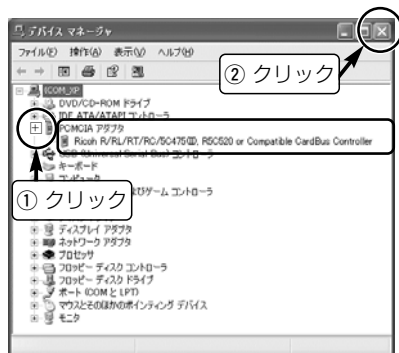


1 ご使用の前に

1-3.PCカードドライバーの状態を確認する

■ 確認の手順(つづき)

3.「PCMCIA アダプタ」の田をクリックして表示されるデバイスのアイコンに「!」や「×」マークが付いていないことを確認します。



4.「!」や「×」マークが付いていなければ、「デバイス マネージャ」の〈×〉をクリックして、画面を閉じます。

※「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名に「!」や「×」マークが付いている場合は、ご使用のパソコンに付属する取扱説明書などを参考にPCカードドライバーを再インストールしてください。

このままの状態でご使用になっても、本製品を使用できません。

5.ドライバーの新規インストール(2章)に進みます。

〈ご参考に〉

左の画面で、「PCMCIA アダプタ」の中に表示されるデバイス名は、ご使用のパソコンによって異なります。

1-4.使用する場所について

下記の内容について注意しないと、通信範囲や速度に影響します。

- ◎ 次のことを考慮して、ご使用ください。
 - 本製品の上に物を置かないでください。
 - 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。
コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
 - 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
 - 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。
- ◎ 振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所でご使用ください。
- ◎ 本製品を装着したパソコンができるだけ相手方を見通せるような場所でご使用になることをおすすめします。
- ◎ 「インフラストラクチャ」モードでご使用になるとき、無線端末の収容台数は、弊社製無線アクセスポイントの取扱説明書をご覧ください。
- ◎ 「アドホック」モードでご使用になるとき、同じグループに最大40～50台収容できますが、煩雑に通信をするような環境では、接続台数を10台以下にすることをおすすめします。
- ◎ 本製品の最大伝送距離は、通信速度無線LAN規格によって異なります。定格(※6-7章)でご確認ください。

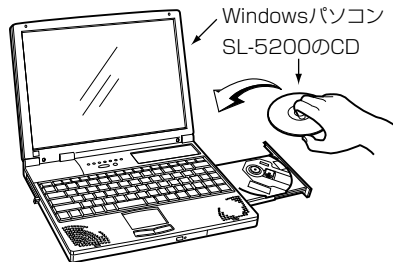
2 ドライバーの新規インストール

2-1.Windows XPの場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

1.付属のCDをセットする



※パソコンは、**管理者権限でログオン**してください。

2.メニュー画面が表示されます。



※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■ **再インストールするときは**、インストール手順1.~3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。

※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取り外してください。

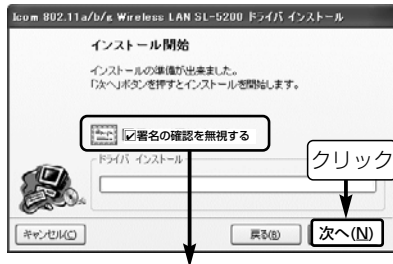
■ インストールの手順(つづき)

3.インストールを始めます。



4. <次へ(N)> をクリックします。

- インストールを開始します。

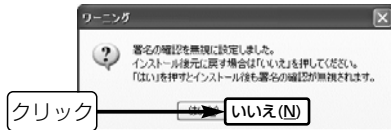


[ドライバの署名]確認が表示されている場合でも、そのまま <次へ(N)> をクリックしてください。

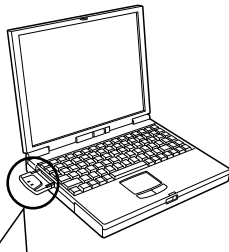
2 ドライバーの新規インストール

2-1.Windows XPの場合(■ インストールの手順)つづき

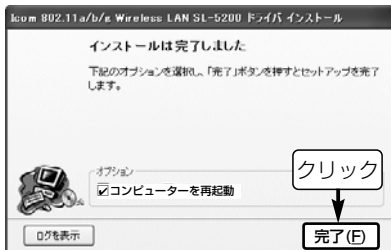
5. <いいえ(N)> をクリックします。



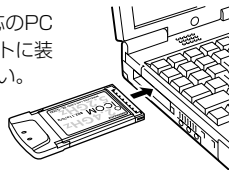
7.SL-5200を取り付けます。



6. <完了(E)> をクリックします。



CardBus対応のPC
カードスロットに装
着してください。



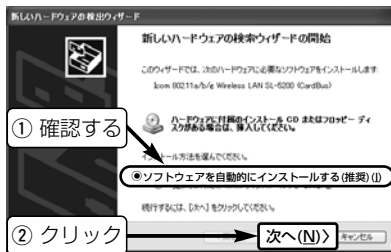
※装着方法は、お使いのパソコンによ
って異なることがありますので、ご
注意ください。

■ インストールの手順(つづき)

8.SL-5200の装着を認識すると、
次の内容を表示します。



9.インストール方法を設定します。



10.画面が終了するまで、そのま
まの状態待ちます。



〈ご参考に〉

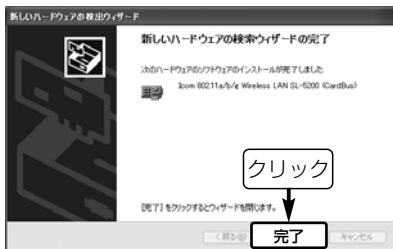
手順8.で画面を表示しないときは、「PCカード
ドライバーの状態を確認する」(※ 1-3章)
を確認してください。

2 ドライバーの新規インストール

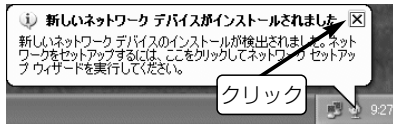
2-1.Windows XPの場合(■ インストールの手順)つづき

11.〈完了〉をクリックします。

- インストールは完了です。



12.画面上で、☒をクリックします。



Windows XPのネットワークセットアップウィザードの実行画面が表示されたときは、キャンセルしてください。

13.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

〈ご参考に〉

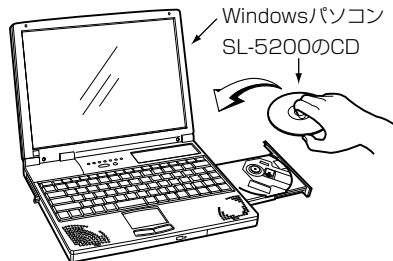
SL-5200のドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

2-2.Windows Me/2000の場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

1.付属のCDをセットする



※Windows 2000の場合は、**管理者権限でログオン**してください。

2.メニュー画面が表示されます。



※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

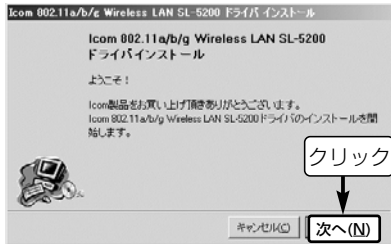
■再インストールするときは、インストール手順1.~3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。

※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取り外してください。

2 ドライバーの新規インストール

2-2.Windows Me/2000の場合(■ インストールの手順)つづき

3.インストールを始めます。



4.〈次へ(N)〉をクリックします。

- インストールを開始します。

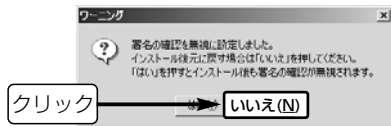


Windows 2000の場合、[ドライバの署名]確認が表示されている場合でも、そのまま〈次へ(N)〉をクリックしてください。

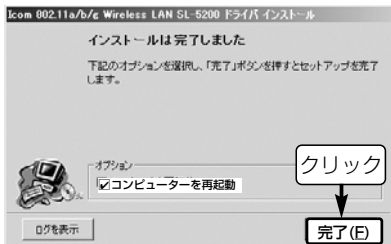
※Windows Meのかたは、手順6.に進みます。

■ インストールの手順(つづき)

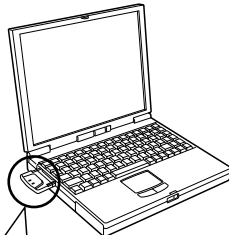
5.Windows 2000のかたは、**いいえ(N)** をクリックします。



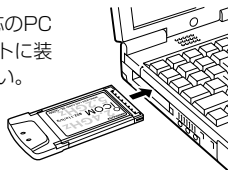
6. **完了(E)** をクリックします。



7.SL-5200を取り付けます。



CardBus対応のPC
カードスロットに装
着してください。



※ 装着方法は、お使いのパソコンによ
って異なることがありますので、ご
注意ください。

2 ドライバーの新規インストール

2-2.Windows Me/2000の場合(■ インストールの手順)つづき

8.SL-5200の装着を認識すると、

次の内容を表示します。

- インストールは完了です。



9.設定ユーティリティの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

〈ご参考に〉

◎手順8.で画面を表示しないときは、「PCカードドライバーの状態を確認する」(☞1-3章)を確認してください。

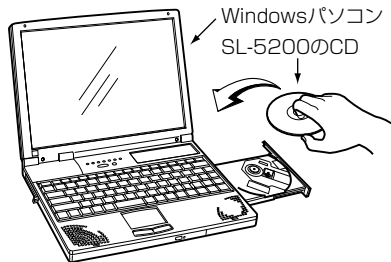
◎SL-5200のドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

2-3.Windows 98 SEの場合

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

1.付属のCDをセットする



2.メニュー画面が表示されます。



※表示しないときは、CDに収録された「AutoRun.exe」をダブルクリックします。

■再インストールするときは、インストール手順1.~3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。

※再インストールのときは、PCカードスロットから本製品を取り外してください。

2 ドライバーの新規インストール

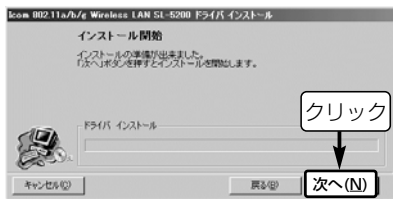
2-3.Windows 98 SEの場合(■インストールの手順)つづき

3.インストールを始めます。



4.〈次へ(N)〉をクリックします。

- インストールを開始します。



5.Windows 98 Second EditionのCD-ROMと入れ替えます。



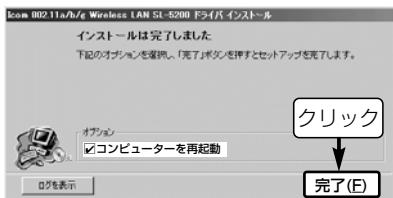
※手順5.の画面が表示されないときは、手順7.に進みます。

6.Win98フォルダーを指定します。



指定のしかた⇒次ページ

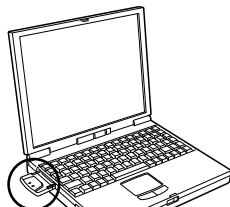
■ インストールの手順(つづき)
7. <完了(E)> をクリックします。



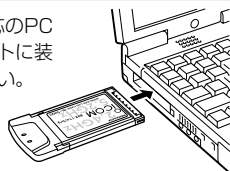
<Win98フォルダーの指定について>

CDの起動ドライブ名[D:](例)は、お使いのパソコンによって異なることがあります。
手順6.の画面が表示されたときは、フォルダ名「Win98」をドライブ名[D:](例)に続けて、[D:¥Win98]と指定してください。

8.SL-5200を取り付けます。



CardBus対応のPC
カードスロットに装
着してください。



※ 装着方法は、お使いのパソコンによ
って異なることがありますので、ご
注意ください。

2 ドライバーの新規インストール

2-3.Windows 98 SEの場合(■インストールの手順)つづき

9.SL-5200の装着を認識すると、
次の内容を表示します。



※画面を表示しないときは、「PCカードドライバ
ーの状態を確認する」(※1-3章)を確認
してください。

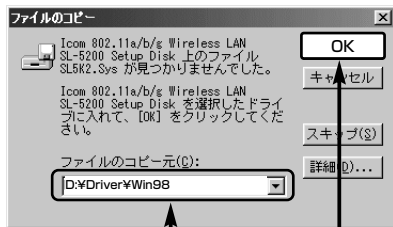
10.付属のCDと入れ替えます。



※手順5.の画面が表示されなかったかは、
CDを入れ替えずに、〈OK〉をクリックし
ます。

※手順10.の画面が表示されないときは、手
順15.に進みます。

11.付属のCD収録されたWin98フ
ォルダを指定します。



① 指定する

② クリック

〈Win98フォルダの指定について〉

CDの起動ドライブ名[D:](例)は、お使いのパソコンによって異なることがあります。

手順11.の画面が表示されたときは、フォルダ名「Driver¥Win98」をドライブ名 [D:](例)に続けて、[D:¥Driver¥Win98]と指定してください。

■ インストールの手順(つづき)

12.再度、手順11と同じフォルダーを指定します。



※お使いのパソコンで手順11と手順12の画面が表示されるかどうかは、環境によって異なります。

SL5k2.sysとSL5k2Mp.sysのファイルを手順11～12.の操作で見つけると、手順13.の画面を表示します。

13.Windows 98 Second EditionのCD-ROMと入れ替えます。



14.Win98フォルダーを指定します。



2 設定ユーティリティーについて

2-3.Windows 98 SEの場合(■インストールの手順)つづき

15.パソコンからCDを取り出します。

16.パソコンを再起動すると、インストールは完了です。

※再起動後、「ネットワークのパスワード入力」画面が表示されたときは、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]をテキストボックスに入力してから、〈OK〉をクリックします。

17.設定ユーティリティーの新規インストール(☞3-1章)に進みます。

〈ご参考に〉

◎SL-5200のドライバーをインストールしたパソコンは、次回使用時から本製品をそのパソコンに装着するだけで使用できます。

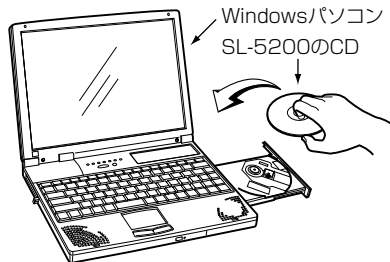
3-1. 設定ユーティリティの新規インストール

無線通信モード(※1-1章)やセキュリティの設定などを行うソフトウェアです。

※本製品を使って通信するすべてのパソコンにインストールしてください。

■ インストールの手順

1. 付属のCDをセットする



※Windows XP、Windows 2000の場合は、**管理者権限でログオン**してください。

2. メニュー画面が表示されます。



■ **再インストールするときは**、インストール手順1.~3.の操作をすると表示されるアンインストールウィザードにしたがって操作してください。

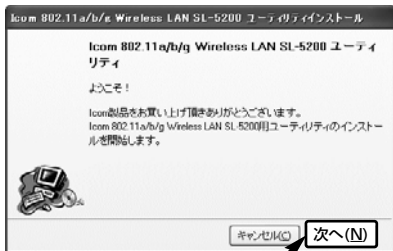
※設定ユーティリティを起動しているときは、終了後に再インストールしてください。

3 設定ユーティリティについて

3-1. 設定ユーティリティの新規インストール

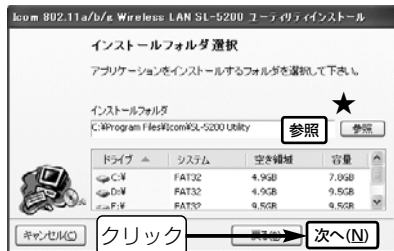
■ インストールの手順(つづき)

3. インストールを始めます。



クリック

4. インストール先のフォルダーを選択します。



画面に表示されたフォルダー(C:\Program Files)を変更しない場合は、そのまま〈次へ(N)〉をクリックします。

★インストール先を変更するときは、〈参照〉をクリックして指定します。

■ インストールの手順(つづき)

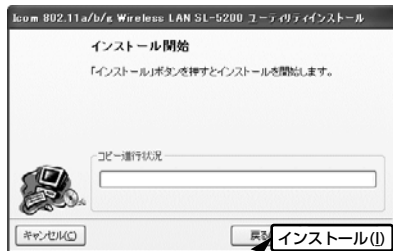
5. フォルダを作成します。



手順4.で指定した先(C:¥Program Files)に [lcom]フォルダを自動作成することを許可する場合は、〈OK〉をクリックします。

6. 〈インストール(I)〉をクリックします。

- インストールを開始します。



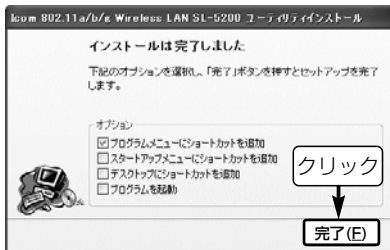
3 設定ユーティリティについて

3-1. 設定ユーティリティの新規インストール

■ インストールの手順(つづき)

7. 〈完了(F)〉をクリックします。

- インストールは完了です。



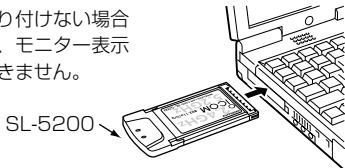
3-2.起動と終了のしかた

インストール(※3-1章)された設定ユーティリティの起動と終了のしかたを説明します。

■ 起動のしかた

1.SL-5200を取り付けます。

取り付けない場合は、モニター表示できません。



2.プログラムメニューから[SL-5200 Utility]を選択します。

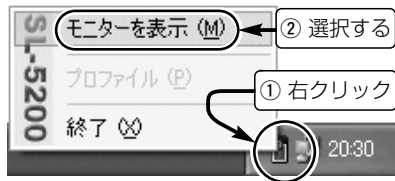


3.アイコンの表示を確認します。



※アイコンの意味については、27ページをご覧ください。

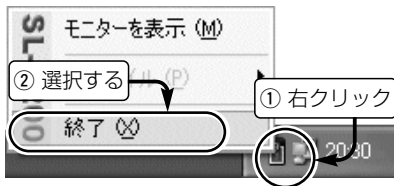
4.モニター画面を表示します。



3 設定ユーティリティーについて

3-2.起動と終了のしかた(つづき)

■ 終了のしかた



カーソルを表示されたアイコンの上へ移動して、右クリックすると表示されるメニューから「終了(X)」を選択します。

■ Windows XPでご使用のかたへ

(2003年12月現在)

Windows XP搭載のWPA暗号化認証方式を設定する場合は、本製品の設定ユーティリティーから、設定できません。





Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用してください。(※4章) また、WPA暗号化認証方式は、弊社製無線アクセスポイントの暗号化方式とは互換性がありません。

※暗号化された弊社製無線アクセスポイントと通信する場合は、本製品の設定ユーティリティーで暗号化設定してください。

※Windows XPにインストールした設定ユーティリティーを本製品の設定に使用する場合は、「設定ユーティリティーをWindows XPで使用するには」(※3-3章)で設定を変更してください。

3-2.起動と終了のしかた(つづき)

■ タスクバーに表示されるアイコンの意味

	<p>通信中</p>	<p>無線ネットワークに正常に接続された状態 ※電波強度を4段階で表示し、「アドホック」のときは、電波強度は「4」のままで変化しません。</p>
	<p>スキャン中</p>	<p>無線通信モードが「インフラストラクチャ」のとき表示されます。 本製品と接続するパソコンが、通信できる無線アクセスポイントの無線伝送エリアを外れた状態か、無線アクセスポイントを探している状態</p>
	<p>アダプタが見つかりません</p>	<p>本製品がパソコンに装着されていない、または本製品の接続を認識していない状態</p>
	<p>アダプタは正しく動作していません</p>	<p>本製品が接続されているが、本製品のドライバーが正しくインストールされないなどで装着を認識しない状態</p>

3 設定ユーティリティについて

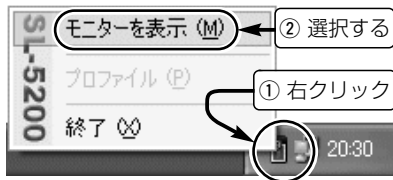
3-3.設定ユーティリティをWindows XPで使うには

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続[(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)](※4-1章)を使用しないときは、下記の手順で設定を変更できます。

WPA(Wi-Fi Protected Access)暗号化の設定をするときや、WPA無線LAN機器との通信には、ワイヤレスネットワーク接続を使用してください。

■ 設定変更の手順

1.モニター画面を起動します。



「モニターを表示(M)」を選択できないときは、設定ユーティリティを一度終了したあと、SL-5200をパソコンに取り付けてから起動(※3-2章)しなおしてください。

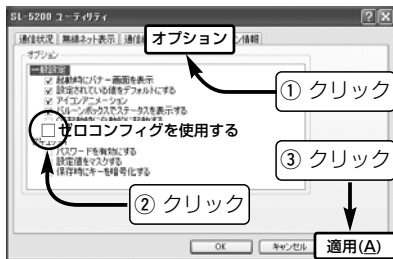
2.タブの数を確認します。



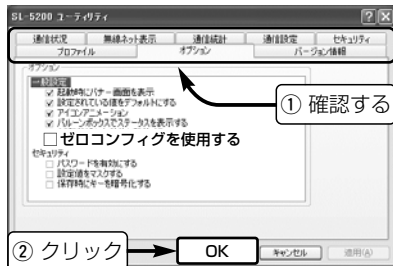
タブ(モニター画面)が5つ表示されている場合は、手順3.で設定を変更すると、設定ユーティリティを使用して設定できます。

■ 設定変更の手順(つづき)

- 3.[オプション]タブをクリックします。
- 4.「ゼロコンフィグを使用する」のチェックマークを外します。
- 5.〈適用(A)〉をクリックします。
※〈OK〉でも設定を反映できます。



- 6.本製品の設定に使用するタブが表示されます。
- 7.〈OK〉をクリックします。



※手順7.で上記の設定をした場合は、ワイヤレスネットワーク接続(④4-1章/5-1章)の操作はできません。

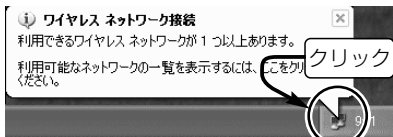
4 アクセスポイントと無線通信する

4-1.ワイヤレスネットワーク接続を使う

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、無線アクセスポイントと通信する手順です。

■ 接続の手順

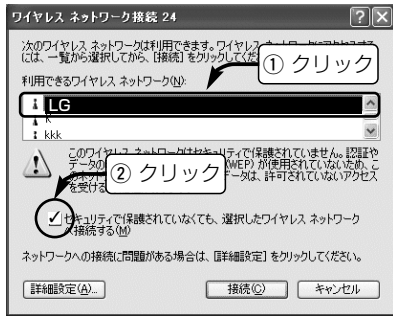
1.[ネットワークアイコン]をクリックします。



※本製品が無線アクセスポイントを見つけられない場合は、上記のメッセージは表示されず、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。

状況によっては、しばらくしてから無線アクセスポイントを見つける場合があります。

2.無線アクセスポイントを選択します。
【暗号化されていないネットワークの場合】

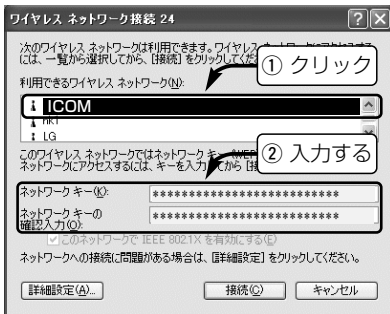


■ 接続の手順(つづき)

【暗号化されたネットワークの場合】

暗号化鍵(キー)を入力します。

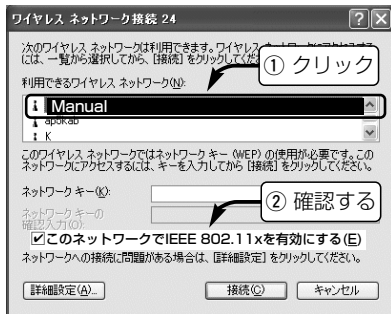
※暗号化方式は、[利用できるネットワーク(N)]の中から接続したい無線アクセスポイント名をクリックすることで自動判別しますので、キーを正確に入力するだけです。



※適切な文字数でキーが入力されていないときは、警告の内容にしたがって入力します。

【RADIUS認証が必要な場合】

[利用できるネットワーク(N)]の中から無線アクセスポイント名をクリックしたとき、RADIUS認証に対応している場合は、[このネットワークでIEEE 802.11Xを有効にする(E)]項目の設定が可能になります。

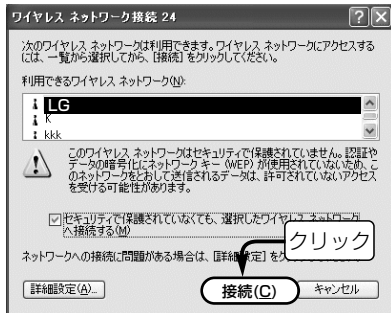


※IEEE802.11xが有効に設定されていれば、暗号化鍵(キー)の入力は不要です。

4 アクセスポイントと無線通信する

4-1.ワイヤレスネットワーク接続を使う(■ 接続の手順)つづき

3. <接続(C)> をクリックします。



■ 次回起動時の接続について

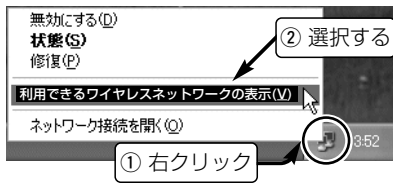
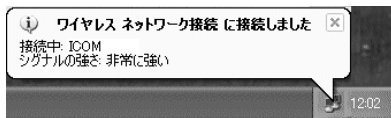
前回選択した無線アクセスポイント(例: LG)を検索して優先的に接続されます。
※無線チャンネルは、自動的に無線アクセスポイントのチャンネルになります。

■ アクセスポイントを切り替えるには

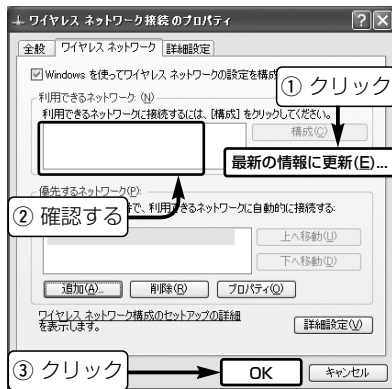
下記の操作で表示される画面から、その名前(例: si5200)を指定して、接続操作をやりなおします。

※次回起動時、無線アクセスポイント(例: si5200→LGの順番に)検索して、電波状況の良い方に接続します。

4.接続すると画面を表示します。



- [利用できるワイヤレスネットワーク (N):]欄に何も表示されないときは？
下記の操作で、表示されることがあります。



上記の画面は、手順2.の画面(☞P30)で、〈詳細設定(A)...〉をクリックしてください。

- WPA暗号化方式で通信するには？
下記の条件に満たないパソコンや無線アクセスポイントでは使用できません。

(2003年12月現在)

- 本製品の設定ユーティリティでは、設定および接続できません。
Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続をご使用ください。(☞4-1章)
- WPA暗号化(WEP/TKIP/AES)方式をご使用になる場合は、Windows XPのService Pack1とWPA対応修正プログラムを適用していただく必要があります。
WPA対応修正プログラムは、Windows Updateから適用されません。
マイクロソフト サポート技術情報からダウンロードして適用してください。
- WPA暗号化方式と異なる方式で暗号化された無線アクセスポイントとは通信できません。

4 アクセスポイントと無線通信する

4-2.自動検索される無線アクセスポイントを追加するには

本製品の起動時、ワイヤレスネットワーク接続で自動検索する無線アクセスポイントを候補に追加する手順です。

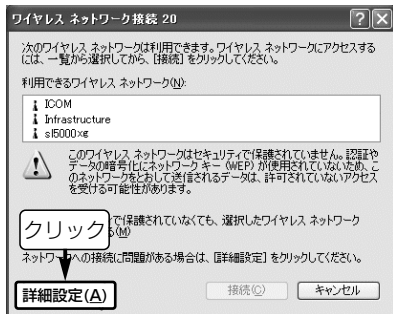
■ 追加する手順

1. [利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]を選択します。



※上記の選択メニューは、タスクバーの[ネットワーク]アイコンを右クリックすると表示します。

2. <詳細設定(A)> をクリックします。



■ 追加する手順(つづき)

3. <追加(A)...>をクリックします。



4. [SSID]を入力します。



[ネットワーク名(SSID)(N):]欄に半角で入力します。
(入力例：ap5100)

※[ESS ID]と表記されている無線アクセスポイントもありますが、同じ意味です。

4 アクセスポイントと無線通信する

4-2.自動検索される無線アクセスポイントを追加するには(■ 追加する手順)つづき

5. <OK> をクリックします。

※下記は、暗号化する場合の手順です。



※鍵(キー)の入力は、無線アクセスポイントと同じにします。(例: WEPの場合)

6.追加されていることを確認して、<OK> をクリックします。



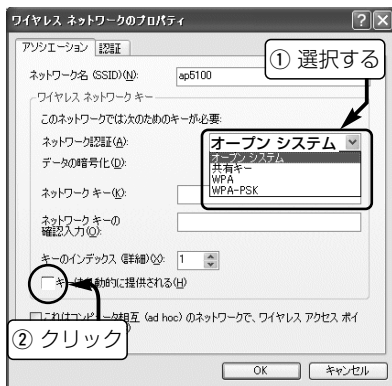
※追加した名前(例: ap5100)のアイコンに表示される「×(赤色)」印は、その無線アクセスポイントに接続できると消えます。

■ 認証および暗号化方式の設定について

従来の無線LAN機器に搭載の[WEP(RC4)]暗号化方式に加え、[WPA(TKIP/AES)]と[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化認証方式に対応しています。

※弊社製無線LAN機器に搭載の[OCB AES]は、本製品の設定ユーティリティで設定できます。

1.暗号化認証方式を選択します。



【ネットワーク認証(A)】

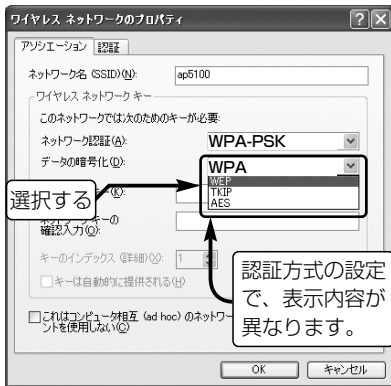
- **オープン システム**(出荷時の設定)
オープンシステム*¹で認証します。
★1.暗号化鍵(キー)の有無に関係なく認証する方式です。
- **共有キー***²
シェアードキーで認証します。
★2.通信相手と共通の暗号化鍵を持っているかどうかを認証する方式です。
- **WPA**(Wi-Fi Protected Access)
ご使用のRADIUSサーバを利用して、IEEE802.11x認証します。
- **WPA-PSK**(Pre Shared Key)*³
共通鍵で認証します。
★3.RADIUSサーバを使用しない簡易的な方法で、通信相手と共通の暗号化鍵を持っているかどうかの認証をします。

4 アクセスポイントと無線通信する

4-2.自動検索される無線アクセスポイントを追加するには

■ 認証および暗号化の設定について(つづき)

2.暗号化方式について選択します。



※暗号化方式が同じでも、通信相手と認証方式の設定が異なる場合は、互換性がありません。

【データの暗号化(D)】

- 無効になっています
送信データを暗号化しません。
※「WPA」/「WPA-PSK」認証選択時を除く
- WEP(出荷時の設定)
RC4方式を暗号化に使用します。
※「WPA」/「WPA-PSK」認証で使用できる「WEP」のほうが強力です。
- TKIP(Temporal key Integrity Protocol)
TKIP方式を暗号化に使用します。
※暗号化鍵(キー)を一定時間間隔で自動更新しますので、「WEP」より強力です。
- AES(Advanced Encryption Standard)
AES方式を暗号化に使用します。
※暗号化の強化および暗号化鍵(キー)を一定時間間隔で自動更新することで、「TKIP」より強力な次世代の暗号化方式です。

■ 認証および暗号化の設定について(つづき)

3.暗号化鍵(キー)を入力する。

4. <OK> をクリックします。



【ネットワークキー(K)/ネットワークキーの確認入力(Q)】

暗号化方式によって、入力できる文字数が異なり、入力する文字によって、入力モード(16進数/ASCII)を自動判別します。

- 「オープン システム/共有キー」選択時
10または26桁：16進数モード
5または13文字：ASCIIモード
- 「WPA」選択時
入力は不要です。
- 「WPA-PSK」選択時
64桁：16進数モード
8~63文字：ASCIIモード

★[キーのインデックス(詳細)(X)]

弊社製無線LAN機器の[キー ID]設定欄と同じ意味として使用されています。

※「0」が設定できる場合は、「Service Pack 1」とWPA対応修正プログラムを適用後に設定してください。

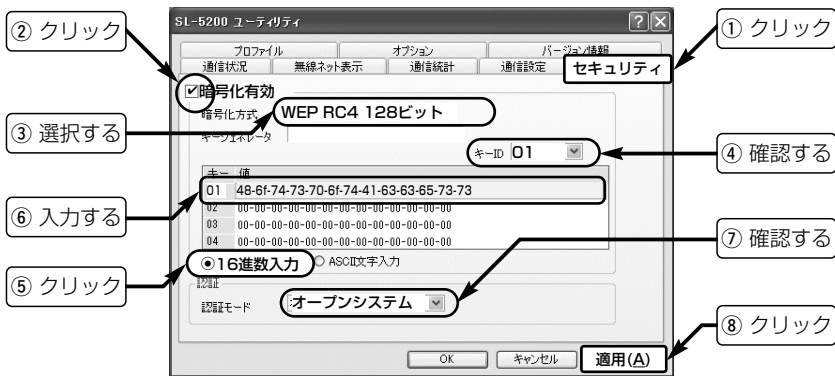
4 アクセスポイントと無線通信する

4-3.設定ユーティリティを使う

本製品の設定ユーティリティを使用して、無線アクセスポイントと通信する手順です。Windows XPで、本製品の設定にご使用の場合は、設定を変更してください。(※3-3章)

■ 接続の手順

- 1.設定ユーティリティの「モニター表示」画面(※3-2章)を表示させます。
- 2.通信が暗号化されている場合は、無線アクセスポイントと同じ鍵(キー)を入力します。
※2003年12月現在、WPA暗号化認証方式の設定には対応していません。



■ 接続の手順(つづき)

3.[通信状況]タブをクリックして、無線アクセスポイントとの通信を確認します。

パソコンに装着した本製品の情報です。

現在、接続している無線アクセスポイントの情報です。

クリック

通信相手を検索しているときは、スキャン中と表示されます。

DHCPサーバからIPアドレスを再取得するときのボタンです。

現在、接続している無線アクセスポイントの電波の強さで、振れが大きいほど強い電波です。

ステーション	アクセスポイント
MACアドレス: 00.90.C7.7A.00.01	MACアドレス: 00.90.C7.73.00.69
IPアドレス: 192.168.0.10	DHCPサーバ: 192.168.0.1

接続状況

SSID: ap5100	電波の品質(強度)
ネットワークモード: インフラストラクチャ	[Signal Strength Icon]
送信速度: 54 Mbps	
チャンネル: 11	
通信状況: 通信中	

IPアドレス更新

4 アクセスポイントと無線通信する

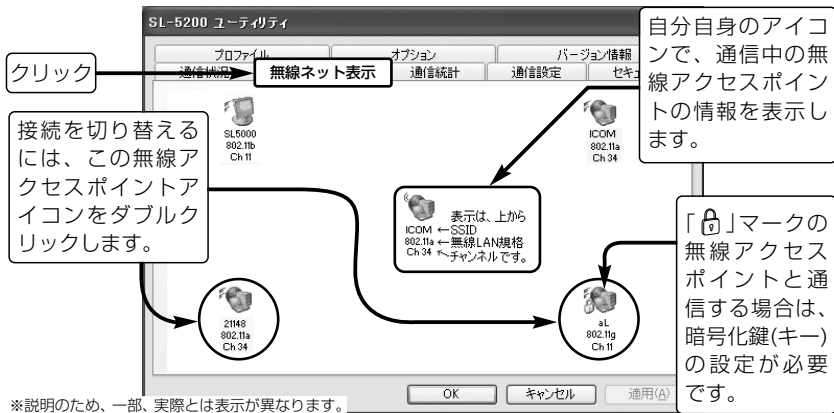
4-3. 設定ユーティリティを使う

■ 次回起動時の接続について

複数の無線アクセスポイントがあると、自動的に通信環境の良い方に接続されます。

■ 無線アクセスポイントを切り替えるには

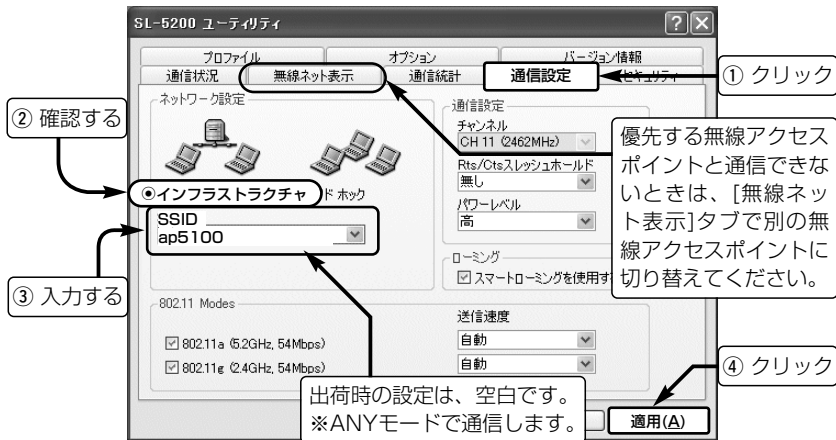
[無線ネット表示]タブに表示された別の無線アクセスポイント(例：21148)をダブルクリックします。(※暗号化キーが異なる無線アクセスポイントには切り替えできません。)



■ 起動時の優先接続設定について

本製品に設定された[SSID]と同じ無線アクセスポイントに接続を優先します。

1. [通信設定]タブをクリックして、[SSID]を半角で入力します。 (例：ap5100)
2. 暗号化が必要な場合は、[セキュリティ]タブで暗号化を設定しておきます。
3. <適用(A)> または <OK> をクリックします。



5 パソコン同士で無線通信する

5-1.IPアドレスを設定する

「アドホック」モードでパソコン同士が無線通信を行うには、固定IPアドレスをパソコンに割り当ててから、本製品の設定を行い通信する必要があります。

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(※そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ IPアドレスの設定について

IPアドレスを設定するときは、下記のことを注意してください。

- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのIPアドレスは、重複しないように設定してください。
- 同一ネットワークグループ内におけるすべてのパソコンのサブネットマスクは、同じ値を設定してください。
- 小規模なネットワーク(254台まで)でご使用になる場合は、プライベートアドレスとして192.168.0.0～192.168.255.255を使用します。

なお、192.168.×××.0(ネットワークアドレス)と192.168.×××.255(ブロードキャストアドレス)は、特別なアドレスとして扱われますので、パソコンには割り当てないでください。(×××：0～255)

3台のパソコンで無線LANを構成するときは、以下のようになります。

パソコンA：192.168.0.10(サブネットマスク：255.255.255.0)

パソコンB：192.168.0.11(サブネットマスク：255.255.255.0)

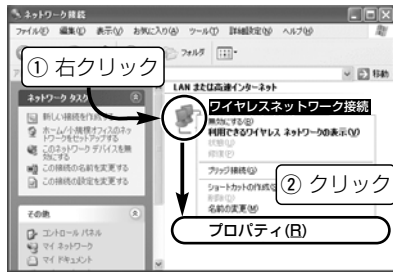
パソコンC：192.168.0.12(サブネットマスク：255.255.255.0)

■ 設定の手順

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - 「ログオン」画面を表示します。
2. 管理者のユーザー名でログオンします。
3. パソコンが起動したら、マウスを〈スタート〉 → [コントロールパネル(C)]の順に操作します。
4. コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
5. [ネットワーク接続]アイコンをクリックします。



6. 本製品の名称が表示された[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンを右クリックして、表示されるメニューから[プロパティ(R)]をクリックします。



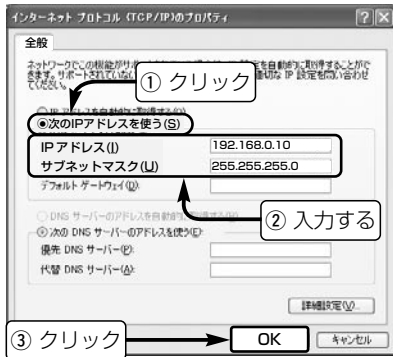
5 パソコン同士で無線通信する

5-1.IPアドレスを設定する(■ 設定の手順)つづき

- 7.本製品の名称が表示されていることを確認します。
- 8.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックします。
- 9.〈プロパティ(R)〉をクリックします。

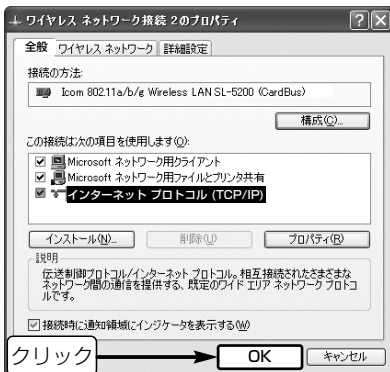


- 10.[次のIPアドレスを使う(S)]のラジオボタンをクリックして、チェックマークを入れます。
- 11.[IPアドレス(I)]と[サブネットマスク(U)]を入力(※P44)して、〈OK〉をクリックします。



■ 設定の手順(つづき)

12.手順9.の画面が表示されますので、
〈OK〉をクリックします。



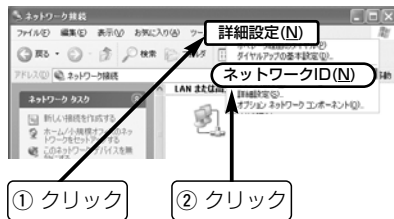
5 パソコン同士で無線通信する

5-2. 「フル コンピュータ名」と「ワークグループ」の設定

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(※そのほかのOSは補足説明書を参照)

■ 設定の手順

1. 本書45ページの手順で、「ネットワーク接続」画面を表示させます。
2. 「詳細設定(N)」から「ネットワークID(N)」をクリックします。
3. 「フル コンピュータ名:」と「ワークグループ:」の変更が必要な場合は、「変更」をクリックすると変更できます。
※入力は、半角英数字で行います。



■ 設定の手順(つづき)**【フル コンピュータ名：】**

ネットワーク上で、パソコンごとに識別用の名前を入力します。

なお、同じネットワークグループのパソコンと重複しないように設定してください。

【ワークグループ：】

同じ名前を設定したパソコンが、ネットワーク上で同じネットワークグループとして認識されます。

同じグループ名を通信の対象となるすべてのパソコンに設定してください。

【コンピュータの説明(□)：】

必要があれば、任意に入力します。

5 パソコン同士で無線通信する

5-3.「共有フォルダー」の設定

自分のパソコンのドライブまたはフォルダーを相手先に公開するには共有フォルダーの設定が必要です。

※本書では、Windows XPを例に説明しています。(※そのほかのOSは補足説明書を参照)

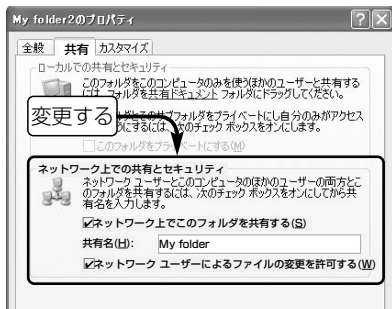
■ 設定の手順

- 1.[マイコンピュータ]アイコンなどから、共有したいフォルダーのあるウィンドウを開きます。
- 2.共有したいフォルダー上にカーソルを移動して右クリックします。
表示されたメニューから[共有とセキュリティ(H)...]をクリックします。



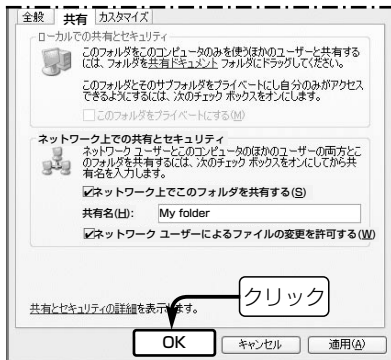
- 3.[ネットワーク上での共有とセキュリティ]の設定内容を変更します。

- 共有設定したフォルダーには、共有を示すアイコンが表示されます。



■ 設定の手順(つづき)

4.手順3.の画面で〈OK〉をクリックします。



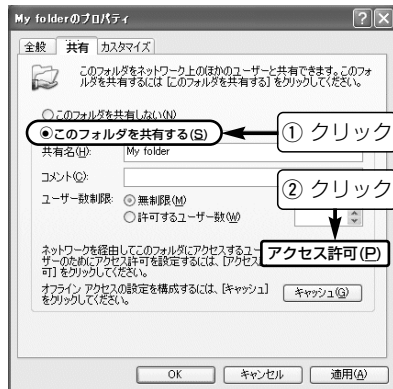
〈ご参考に〉

手順3.の画面は、Windows XPが「簡易共有」に設定されている場合の画面です。

共有するフォルダーのアクセス許可を特定のユーザーだけに設定できません。

共有を特定のユーザーに限定する場合は、「フォルダ オプション」の[表示]タブで、「簡易ファイルの共有を使用する(推奨)」のチェックマークを外すと可能になります。

下記は、そのときの設定画面です。



5 パソコン同士で無線通信する

5-4.ワイヤレスネットワーク接続を使う

Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(以後、ワイヤレスネットワーク接続と表記)を使用して、相手のパソコンと直接通信する手順について説明します。

■ 本製品の設定

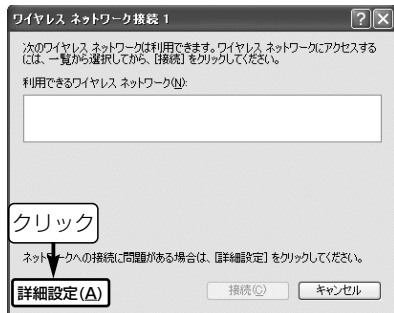
1. [利用できるワイヤレスネットワークの表示(V)]を選択します。



※上記の選択メニューは、タスクバーの[ネットワーク]アイコンを右クリックすると表示します。

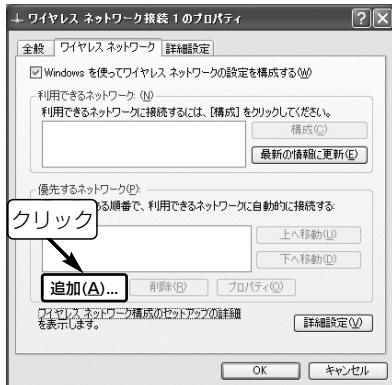
※出荷時は、通信できる無線アクセスポイントを自動検索ように設定されていますので、検索できない環境では、「×」マークを[ネットワーク]アイコンに表示します。

2. <詳細設定(A)> をクリックします。



■ 本製品の設定(つづき)

3. <追加(A)...>をクリックします。



4. [SSID]を入力します。



[ネットワーク名(SSID)(N):]欄に半角で入力します。
(入力例: sl5200)

※[ESS ID]と表記されている無線パソコンもありますが、同じ意味です。

5 パソコン同士で無線通信する

5-4.ワイヤレスネットワーク接続を使う(■ 本製品の設定)つづき

5.無線通信モードを「アドホック」に
設定します。



※チェックマークをいれると、「アドホック」モードになります。

6. <OK> をクリックします。
※下記は、暗号化する場合の手順です。



※鍵(キー)の入力は、無線アクセスポイントと同じにします。(例: WEPの場合)

■ 本製品の設定(つづき)

【暗号化設定のご参考に】

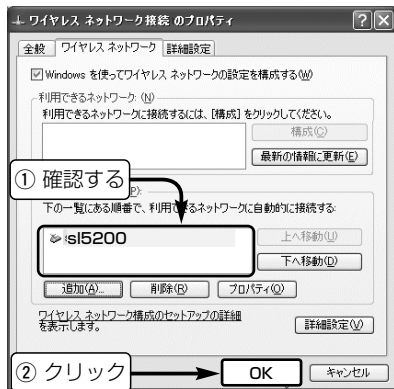
- 無線チャンネルは、設定不要です。
自動的に相手のチャンネルになります。
- 「アドホック」モードの場合、「WPA-None」を[ネットワーク認証(A)]で設定しても、暗号化認証は無効です。
- 各設定項目の説明は、「■ 認証および暗号化方式の設定について」(P37)をご覧ください。

★[キーのインデックス(詳細)(X)]

手順6.の画面にある[キーインデックス(詳細)(X)]項目は、弊社製無線LAN機器の[キー ID]設定欄と同じ意味として使用されています。

※「0」が設定できる場合は、「Service Pack 1」を適用後に設定してください。

7.追加されていることを確認して、〈OK〉をクリックします。



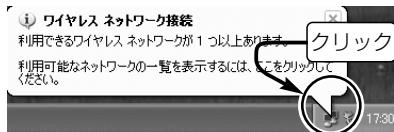
※追加した名前(例：s15200)のアイコンに表示される「×(赤色)」印は、その無線パソコンに接続できると消えます。

5 パソコン同士で無線通信する

5-4.ワイヤレスネットワーク接続を使う(つづき)

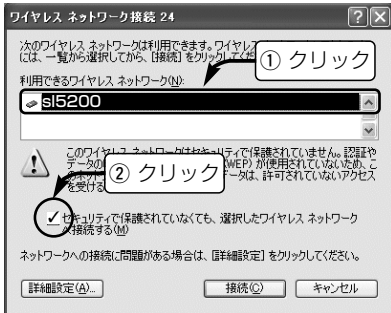
■ 接続の手順

1.[ネットワークアイコン]をクリックします。



※[ネットワーク]アイコンだけが表示される場合は、無線伝送エリア内に通信相手がない通信待ちの状態です。

2.相手のパソコン名を選択します。
【暗号化されていない無線パソコンの場合】



【暗号化された無線パソコンの場合】

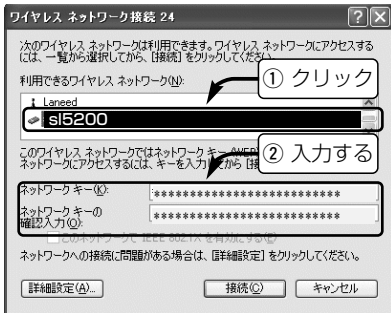
⇒次ページ

■ 接続の手順(つづき)

【暗号化された無線パソコンの場合】

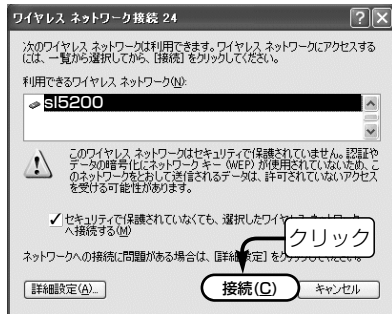
暗号化鍵(キー)を入力します。

※暗号化方式は、[利用できるネットワーク(N)]の中から接続したい無線パソコン名をクリックすることで自動判別しますので、キーを正確に入力するだけです。

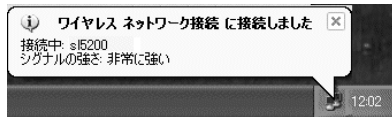


※適切な文字数でキーが入力されていないときは、警告の内容にしたがって入力します。

3. <接続(C)> をクリックします。



4. 接続すると画面を表示します。



5 パソコン同士で無線通信する

5-4.ワイヤレスネットワーク接続を使う(つづき)

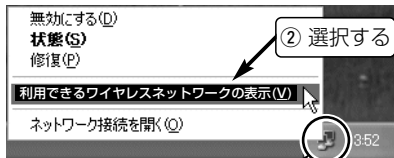
■ 次回起動時の接続について

前回選択した無線パソコン(例：s15200)を検索して優先的に接続します。

■ 通信相手を切り替えるには

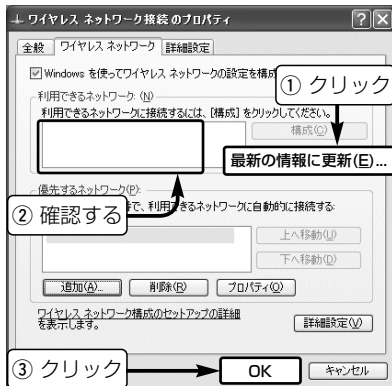
下記の操作で表示される画面から、その名前(例：ICOM)を指定して、接続操作をやりなおします。

※次回起動時、無線パソコンを(例：ICOM→s15200の順番に)検索して、電波状況の良い方に接続します。



■ [利用できるワイヤレスネットワーク(N):]欄に何も表示されないときは？

下記の操作で、表示されることがあります。



上記の画面は、手順2.の画面(☞P56)で、〈詳細設定(A)...〉をクリックしてください。

5-5.設定ユーティリティを使う

本製品の設定ユーティリティを使用して、相手のパソコンと直接通信する手順です。
Windows XPで、本製品の設定にご使用の場合は、設定を変更してください。(※3-3章)

■ 接続の手順

- 1.設定ユーティリティの「モニター表示」画面(※3-2章)を表示させます。
- 2.[通信設定]タブで、下記の設定をしてから〈適用(A)〉をクリックします。

The screenshot shows the 'SL-5200 ユーティリティ' window with the '通信設定' (Communication Settings) tab selected. The window is divided into three sections: 'ネットワーク設定' (Network Settings), '通信設定' (Communication Settings), and '802.11 Modes'. Callouts 1 through 6 point to specific elements: 1 points to the '通信設定' tab, 2 points to the 'アドホック' (Ad-hoc) radio button, 3 points to the 'SSID' text box containing 'sl5200', 4 points to the '802.11g(2.4GHz,54Mbps)' radio button, 5 points to the 'チャンネル' (Channel) dropdown menu, and 6 points to the '適用(A)' (Apply) button. A text box on the right explains that the channel should be set according to the other party's requirements to avoid connection requests.

① クリック

② クリック

③ 入力する

④ 選択する

⑤ 選択する

⑥ クリック

相手の接続要求に対して、ここで設定するチャンネルで通信します。自分から接続を要求するときは、相手のチャンネルに自動設定されます。

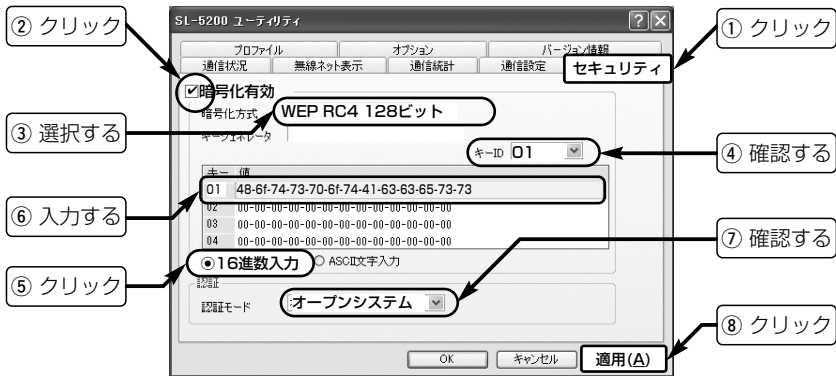
5 パソコン同士で無線通信する

5-5.設定ユーティリティを使う

■ 接続の手順(つづき)

3.通信が暗号化されている場合は、無線パソコンと同じ鍵(キー)を入力します。

※2003年12月現在、WPA暗号化認証方式の設定には対応していません。



〈ご参考に〉

出荷時、[SSID]の設定は、空白(ANYモードで通信)です。

何も設定しない場合は、通信環境の良い方の無線パソコンに接続されます。

■ 接続の手順(つづき)

4. [通信状況]タブをクリックして、通信状態を確認します。

※相手との通信を確認するには、Pingコマンドを使用(☞6-4章)してください。

① クリック

自分のパソコンの
情報です。

通信相手を検索しているときは、スキャン中表示されます。

② クリック

「アドホック」のときは、電波強度は最大のまま変化しません。

5 パソコン同士で無線通信する

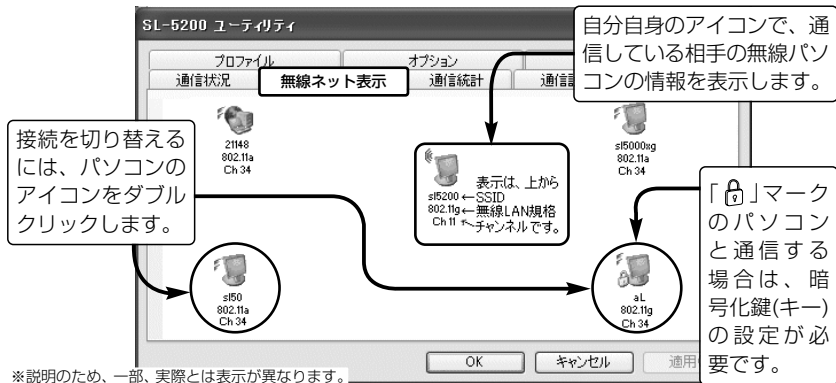
5-5.設定ユーティリティを使う

■ 次回起動時の接続について

本製品に設定された[SSID](例：sI5200)や暗号化鍵(キー)と同じパソコンに接続を優先します。

■ 通信相手を切り替えるには

[無線ネット表示]タブに表示された別の無線パソコン(例：sI50)をダブルクリックします。
※暗号化キーが異なる無線パソコンには切り替えできません。



6-1.本製品の取り外しかた

パソコンを使用中、本製品を取り外す場合の手順について説明します。

取り外す前に、通信相手と送受信中でないことを確認してから下記の操作をしてください。

※Windows XPは、下記の操作は不要ですので、そのまま取り外してください。

※本製品をPCカードスロットに装着しなおすと、再使用できます。

■ 取り外すときの手順

1. アイコンをクリックします。

2. [Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200(CardBus)]の表示をクリックします。

[Windows Me/Windows 2000]



[Windows 98 Second Edition]



3. <OK> をクリックします。

[Windows Me/Windows 2000]



[Windows 98 Second Edition]



6 ご参考に

6-2.本製品のアンインストール

本製品(ドライバーまたは設定ユーティリティ)をアンインストールする手順について説明します。(※手順は同じため、ドライバーを例に説明します。)

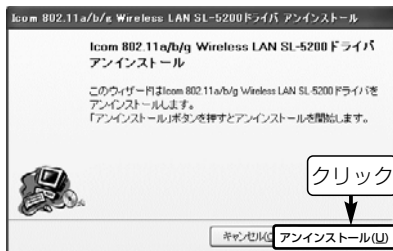
設定ユーティリティが起動中の場合は、終了してからアンインストールしてください。

■ Windows XP/2000の場合(※Windows XPの画面を例にしています。)

- 1.マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
- 2.コントロールパネルから、[プログラムの追加と削除]をクリックします。
- 3.[Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200 Driver]→〈変更と削除〉の順にクリックします。



- 4.〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示される画面にしがいます。



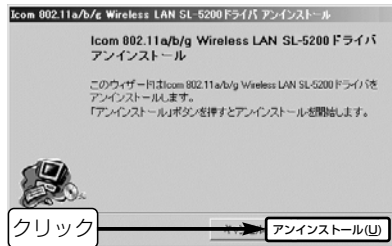
- 5.本製品がパソコンに装着されている場合は、取り外します。

■ Windows Me/98 SEの場合(※Windows Meの画面を例にしています。)

1. 本製品を取り外します。
2. マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]→[アプリケーションの追加と削除]の順に操作します。
3. [Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200 Driver]→〈追加と削除(R)...〉の順にクリックします。



4. 〈アンインストール(U)〉をクリックして、表示する画面にしがいます。



5. 本製品をパソコンに装着している場合は、取り外します。

6 ご参考に

6-3.本製品のインストール状態を確認する

Windows XPを例に、本製品のドライバーが正常にインストールされていることを確認する手順を説明します。

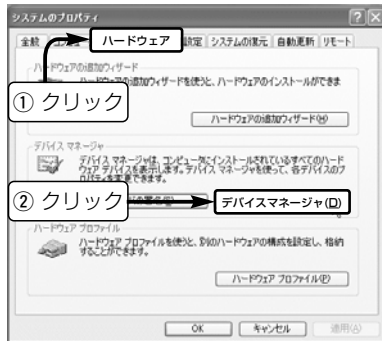
※本製品をパソコンのPCカードスロットに装着した状態で行ってください。

■ 確認の手順

- 1.マウスを〈スタート〉→[マイコンピュ
ータ](右クリック)→「プロパティ(B)」の
順にクリックします。
 - 「システムのプロパティ」を表示します。



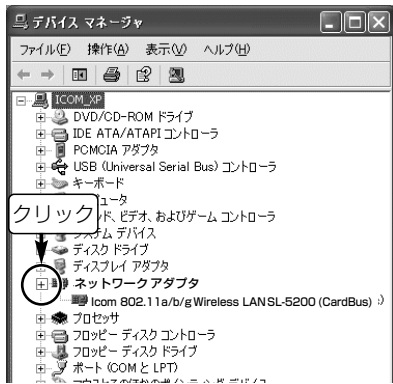
- 2.[ハードウェア]タブ→〈デバイス マネ
ージャ(D)〉の順にクリックします。
 - 「デバイス マネージャ」を表示します。



■ 確認の手順(つづき)

3. 「ネットワークアダプタ」の田をクリックします。

- 正しくインストールされている場合は、「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200(CardBus)」を、下記のように表示します。



※左下の画面で「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200(Card Bus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200(Card Bus)」が表示されているときは、ドライバーを再インストールしてください。

【ドライバーの再インストールについて】

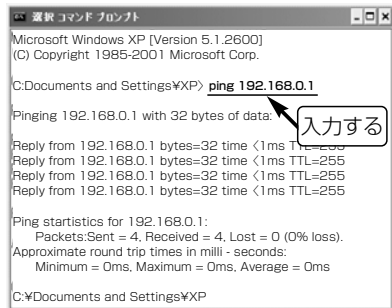
再インストールは、PCカードスロットから本製品を取り外して行ってください。新規インストールの手順(第2章)にしたがってウィザードを実行すると、途中でアンインストールウィザードを表示します。アンインストール操作に続き、インストールウィザードでインストールを行ってください。

6-4.Pingコマンドで接続を確認する

IPパケットが通信先に正しく届いているかを、次の操作で確認できます。
Windows XPを例に、以下の操作手順を説明します。

■ 確認の手順

- 1.マウスを〈スタート〉→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順に操作します。
- 2.キーボードからPingコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
※「192.168.0.1」を相手先のIPアドレスとすると、下記ようになります。
ping 192.168.0.1と入力して、[Enter]キーを押します。
- 3.接続が正常なときは、右の画面のような結果を表示します。



```
Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600]
(C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp.

C:\Documents and Settings\¥XP> ping 192.168.0.1

Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1 bytes=32 time <1ms TTL=255

Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli - seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms

C:\Documents and Settings\¥XP
```

※画面中表示される数値については、
ご使用のネットワーク環境によって異
なります。

6-5.困ったときは?

下記のような症状でお困りの場合の対処方法について説明しています。

〈症状〉 ドライバー/設定ユーティリティーをWindows XP/Windows 2000にインストール、またはアンインストールできない

〈原因〉 OSを管理者(administrator)権限でログオンしていない

対処：OSを管理者のユーザー名でログオンしなおす

〈症状〉 本製品をPCカードスロットに装着してもランプが点灯しない

〈原因1〉 PCカードアダプターが機能していない

対処：PCカードアダプターが正常に動作していることを確認(☞1-3章)する

〈原因2〉 本製品のドライバーが正しくインストールされていない

対処：ドライバーのインストール状態を確認(☞6-3章)する

〈症状〉 ドライバーが正しくインストールできない

〈原因1〉 「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200(CardBus)」のアイコンに「!」や「×」マークがついていたり、「?その他のデバイス」という項目に「Icom 802.11a/b/g Wireless LAN SL-5200(CardBus)」を表示する(☞6-3章)

対処：本製品のドライバーを再インストールする(☞2章)

6 ご参考に

6-5.困ったときは?

〈症状〉ドライバーが正しくインストールできない(つづき)

- 〈原因2〉 Windows 98 SE/Meをご使用の場合、「システムのプロパティ」画面の[デバイスマネージャ]タブの中にある[ネットワークアダプタ]項目に、本製品以外のデバイス名が6個表示されている
対処：本製品を含め、インストールしているデバイスの数を6個以下にする。

〈症状〉無線アクセスポイントと通信できない

- 〈原因1〉 無線アクセスポイントからパソコンのIPアドレスを取得できていない
対処：無線アクセスポイントが使用できる状態であることを確認して、本製品が装着されたパソコンを再起動する
- 〈原因2〉 無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能が無効に設定されている
対処：無線アクセスポイントのDHCPサーバ機能を有効に設定する
- 〈原因3〉 無線LANカードのIPアドレスを固定に変更している
対処：無線LANカードのIPアドレスを「自動的に取得」に設定する
- 〈原因4〉 「アドホック」モードで通信している
対処：無線通信モードを「インフラストラクチャ」に設定する
- 〈原因5〉 本製品に設定した[SSID]と異なる無線アクセスポイントしか存在しない
対処：[SSID]の設定を現状の無線アクセスポイントに変更するか、ワイヤレスネットワーク接続または設定ユーティリティを使用して接続を切り替える

〈症状〉 無線アクセスポイントと通信できない(つづき)

〈原因6〉 802.11bの無線アクセスポイントと通信できない

対処：設定ユーティリティーで、802.11gの[送信速度]を「自動/11/5.5/2/1Mbps」の速度に設定する

〈原因7〉 無線アクセスポイント側でMACアドレスセキュリティ(もしくは、MACアドレスフィルター)が設定されている

対処：無線アクセスポイント側に本製品のMACアドレスを登録する
※本製品のMACアドレスは、設定ユーティリティーの[通信状況]タブに表示されます。

〈原因8〉 無線アクセスポイントと本製品の認証モードが異なっている

対処：本製品の「設定ユーティリティー」(☞4-3章)を使用して、[認証モード]の設定を「オート」にする、またはWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(☞4-2章)を使用して、[ネットワーク認証(A)]の設定(☞P37)を「オープン システム」/「共有キー」にする

〈原因9〉 無線アクセスポイントと本製品の暗号化方式が異なっている

対処：暗号化方式[WEP(RC4)、WPA(WEP/TKIP/AES)]の設定を確認する
※RC4とWPA方式の「WEP」は、互換性がありません。

〈原因10〉 暗号化鍵(キー)の設定を間違えている

対処：無線アクセスポイントと本製品の暗号化鍵(キー)やキーIDの設定を確認する

6 ご参考に

6-5.困ったときは?(つづき)

〈症状〉「アドホック」モードでパソコン同士が無線通信できない

- 〈原因1〉 本製品のIPアドレスを「自動的に取得」に設定している
対処：本製品のIPアドレスを固定(5-1章)で割り当てる
- 〈原因2〉 「インフラストラクチャ」モードで通信している
対処：無線通信モードを「アドホック」に設定する
- 〈原因3〉 [SSID]の設定が通信するほかのパソコンと異なる
対処：[SSID]の設定をほかのパソコンと同じに変更する
- 〈原因4〉 802.11bの無線パソコンと通信できない
対処：設定ユーティリティで、802.11gの[送信速度]を「自動/11/5.5/2/1Mbps」の速度に設定する
- 〈原因5〉 相手の無線パソコンと暗号化方式が異なっている
対処：暗号化方式[WEP(RC4)]の設定を確認する
※パソコン同士の場合、WPA暗号化方式では通信できません。

6-5.困ったときは?(つづき)

〈症状〉無線アクセスポイントに接続できるが、ファイル共有できない

〈原因1〉 共有フォルダーを自分または通信相手のパソコンに設定していない

対処: 本書5-3章を参考に設定してください。

〈原因2〉 「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」のチェックボックスにチェックマークが入っていない

対処: 本書47ページの手順12.の画面を参考に設定を確認してください。

Windows 98 SEやWindows Meの場合は、「Microsoft ネットワーク共有サービス」が表示されていることを確認してください。

〈症状〉弊社製無線アクセスポイントに装着したとき、使用できない

〈原因〉 ご使用の無線アクセスポイントに書き込まれているファームウェア(プログラム)が本製品に対応していない

対処: 弊社ホームページより最新のアップデート用ファームウェアが提供されている場合がありますので、その記載内容から対応状況をご確認ください。

6-6.故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

6-7. 定格

■ 無線部

【5.2GHz帯・54Mbps(IEEE802.11a準拠)】

- 国際規格：IEEE 802.11a準拠
- 国内規格：ARIB STD-T71
- 通信方式：単信方式
- 伝送方式：直交周波数分割多重方式(OFDM)
- 変調方式：OFDM-BPSK、QPSK、16QAM、64QAM
- 使用周波数範囲：5150～5250MHz(5.2GHz帯)
- チャンネル数：全4ch(34ch/38ch/42ch/46ch)
- 通信速度：自動、54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
- 最大伝送距離：室内約55m(見通し)
- セキュリティー：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- グループ通信：SSID(ANY拒否対応)
- アンテナ：ダイバーシティーアンテナ
- 送信出力：10mW/MHz以下
- 受信感度：-65dBm以下(フレームエラーレート=10%)
- 復調方式：OFDM復調

6 ご参考に

6-7.定格(つづき)

■無線部

【2.4GHz帯・54Mbps(IEEE802.11g準拠)】

- 国際規格：IEEE 802.11g準拠
- 国内規格：ARIB STD-T66
- 通信方式：単信方式
- 電波方式：直交周波数分割多重方式(OFDM)
- 変調方式：OFDM-BPSK、QPSK、16QAM、64QAM
- 使用周波数範囲：2400～2483.5MHz(2.4GHz帯)
- チャンネル数：全13ch(1ch～13ch)
- 通信速度：自動、54/48/36/24/18/12/9/6Mbps
- 最大伝送距離：オープンスペース55m(見通し)
- セキュリティ：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- グループ通信：SSID(ANY拒否対応)
- アンテナ：ダイバーシティーアンテナ
- 送信出力：10mW/MHz以下
- 受信感度：-62dBm以下(フレームエラーレート=10%)
- 復調方式：OFDM復調

6-7. 定格(つづき)

■ 無線部

【2.4GHz帯・11Mbps(IEEE802.11b準拠)】

- 国際規格：IEEE 802.11b準拠
- 国内規格：ARIB STD-T66
- 通信方式：単信方式
- 電波方式：直接スペクトラム拡散
- 変調方式：DBPSK、DQPSK、CCK/バーガー符号
- 使用周波数範囲：2400～2483.5MHz(2.4GHz帯)
- チャンネル数：全13ch(1ch～13ch)
- 通信速度：自動、11/5.5/2/1Mbps
- 最大伝送距離：室内約50m(見通し)
オープンスペース150m(見通し)
- セキュリティ：OCB AES：128bit
WEP(RC4)：64bit/128bit/152bit
- グループ通信：SSID(ANY拒否対応)
- アンテナ：ダイバーシティアンテナ
- 送信出力：10mW/MHz以下
- 受信感度：-76dBm以下(フレームエラーレート=8%)
- 復調方式：デジタル復調(マッチドフィルター方式)

6 ご参考に

6-7.定格(つづき)

■一般仕様

- インターフェイス：CardBus Type II
- 入力電圧：DC3.3V±5%
- 消費電流：400mA(Typ)
- 使用温度範囲：0～+55℃
- 保存温度範囲：-20～+65℃(※結露しないこと)
- 重量：約45g(付属品を除く)
- 対応機種：PC/AT互換機(DOS/V)
- 外形寸法：118(W)×5(H)×54(D)mm(※突起物を除く)
- 対応OS：Windows XP、Windows 2000、
Windows Millennium Edition、Windows 98 Second Edition

■暗号化方式対応表(★WPA暗号化方式と互換性はありません。)

OCB AES	AES		WEP(RC4)		
128bit	128bit	256bit	64bit	128bit	152bit
○	×	×	○	○	○

★ Windows XP搭載のWPA暗号化方式に対応しています。

※ 定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

※ 伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

高品質がテーマです。

A-6343X-1J
Printed in Taiwan
© 2003 Icom Inc.

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	108-0022	東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

OCB AES暗号化方式のご使用について

「OCB AES」暗号化方式を使用して、以下の無線LAN機器(弊社製)と通信する場合は、無線LAN機器のファームウェアをバージョンアップしてからご使用いただきますようお願いいたします。

※本製品の「OCB AES」暗号化方式でお使いいただける無線LAN機器のファームウェアバージョンは、以下のとおりです。

■ 対応ファームウェアのバージョン

◎AP-120B	Ver.1.75以降	◎SR-21BB	Ver.1.75以降
◎AP-5000	Ver.1.29以降	◎SR-21VoIP	Ver.1.262以降
◎AP-5100	Ver.1.29以降	◎SR-5000VoIP	Ver.1.105以降
◎AP-3000G	Ver.1.03以降	◎SR-5200VoIP	Ver.1.055以降
◎SB-5000	Ver.1.10以降		

これら無線LAN機器の最新ファームウェアは、弊社ホームページで順次公開いたします。

下記のアドレスにアクセスしていただき、ダウンロードしてください。

バージョンアップの方法は、各無線LAN機器に付属の取扱説明書でご確認ください。

アドレス：<http://www.icom.co.jp/download/index.htm>